



### ベニシジミ

ベニシジミの仲間はアジアからヨーロッパにかけて多くの種類が生息しますが、日本には「ベニシジミ」が分布しています。春は赤っぽく、夏は黒っぽい。秋は両方のタイプが見られます。これから寒い冬を幼虫で過ごし、モンキチョウと飛び始める時期の早さを競うかのように早春に羽化してくる元気ものです。（第1回自然観察会にて、小田原アリーナ近くの畑で撮影しました。）

## 目 次

|                                                              |     |
|--------------------------------------------------------------|-----|
| 教育長インタビュー .....                                              | 2～3 |
| 1 所長あいさつ .....                                               | 4   |
| 「自己研鑽に努める」 教育研究所長 椎野 美乃                                      |     |
| 2 小さなころみ .....                                               | 5   |
| 「児童生徒一人ひとりが自分の考えをもち、進んで学習する力を育むために」<br>全国学力・学習状況調査の活用に関する研究員 |     |
| 3 ある教室から .....                                               | 6   |
| 『生きる力』の原点」 教育指導課指導主事 楠 喜久子                                   |     |
| 4 研究所だより                                                     |     |
| ① 教育講演会 .....                                                | 7   |
| ② おだわら未来学舎 .....                                             | 8   |
| ③ 今後の教育研究所事業について .....                                       | 8   |

## どの子にも光を当てられる「太陽先生」に

～教職員に求められている資質をどのように高めていくか～



昨年10月に教育長に就任以来、「命」「地域」「信頼」をキーワードに掲げ、「3つの心と3つの力」を持った「未来を拓くたくましい子ども」の育成をめざして取り組む栢沼教育長。変化が激しい時代の中であって、これからの教職員に求められる資質や、教職員研修を主な事業の一つとする教育研究所に期待することなどをインタビューしました。

### Q 教職員に求められている資質についてお聞かせください。

まず一つ目は、教育長就任以来話している3つのキーワード、命・地域・信頼、この3つのキーワードをふまえた教育実践ができる先生。

二つ目は、教師の人間力。「教育は人なり」と言うが、先生の人間的な魅力が子どもの教育に非常に大きな影響を与える。

三つ目は、プロ意識を持ち、授業力を備えた先生。よく言われる、「授業で勝負する」先生。

「今の時代なればこそ」で付け加えれば、社会的な常識やマナー、コミュニケーション能力を備えた先生。今後はもっと、そのような資質が求められる。教育の成果のひとつは「信頼」であり、信頼のある土壤の中で豊かに実を結んでいくもの。信頼が深ければ深いほど、教育の成果は大きい。

### Q では、子どもの信頼を得るために、教師の姿勢として大切なことは何でしょう。

まずはじめに、子どもありき。先生の都合ありき、保護者の都合ありきで物事を進めてはいけない。すべての先生はまず「子どもありき」の姿勢で子どもと向き合ってもらいたい。

あとは、私の信条で、どんな子どもも、とにかく絶対に見捨てない。そういう本気で関わる先生と子どもとの間に「あの先生は自分を見捨てなかった。だから、あの先生だったら信じられる。」というように信頼

が芽生える。

また、私なりの言葉で言っているのだけれども、気付きと対応を備えて子どもと関われる先生。「気付いたら動く」という姿勢が必要。

### Q 具体的にはどのようなことでしょうか。

以前、職員室で、教科の先生がクラスの担任に、「先生のクラス、やりにくくてしょうがない。何にも私の話を聞かない。」というのを聞いた。それは「違うだろう」と思う。問題は、その教科の先生の授業力や指導力。それを、学級担任のせいにするのはちがう。「子どもが集中していないのは、自分の指導のどこがいけないんだろう。」「自分の指導のどこが、この子達をそうさせてしまったのだろう。」そういったことに気付いたら、「あの子に対して、次の授業ではこういう切り口でいってみよう。」とまず自ら行動を起こす。

さらに、子どもの心に寄り添うという姿勢が非常に重要。まず受け止める。その子が悩んでいたり楽しかったりしたら、一緒になって悲しんだり喜んだりして共感する。

一言で言うと、「太陽先生」になってほしい。どんな子にも光を当てられる先生。「先生、先生。」って寄ってくる子どもたちは、もうそれで十分。でも、本当は先生に話したいし、先生に寄って行きたいのだけど、性格的になかなか勇気が出せない子がいる。そういう子を「問題がないな。」と先生が見過ごしてしまうことがある。



「太陽」は区別をせず、どんな状況にも光を当てる。まさに、先生方にも「どの子にも光を当てられる」接し方を期待する。

それから、点と線に関わること。何か起きた現象や行為そのものはしっかり指導する。それだけで終わってしまうと点だけの指導。「なぜ、この子はこの行為をやってしまったのだろう。」と、その背景を追いかける先生になってほしい。点と線の指導は、生徒指導においては非常に重要なこと。ややもすると、点だけの指導で終わってしまっているのではないか。

最後に、「3つのトゲ」がない接し方。目にトゲはないか、言葉にトゲはないか、気分にトゲはないか。そういう子どもへの接し方を備えてほしい。

**Q 今年度のおだわら未来学舎のテーマは『教師の実践力と人間性を磨く』です。実践力（授業力）と人間性を磨いていくことについてお聞かせください。**

教育のプロとして、教師の生命線は授業。教師の仕事は授業で成り立っている。当然、授業の中で子どもたちの「わかる・できる」を保障する。わかる授業、できる授業が保障されていると、子どもは絶対にその授業や教科が大好きになる。待ち遠しくなる。

また、先生の人間的な魅力に子どもは惹かれる。授業力も大事だけれども、先生が備えている魅力や人間性というのも、子どもの意欲をかきたてる非常に大きな要素。とても指導技術があって、わかりやすい授業ができる先生でも、人間的な魅力に欠けていたり、子どもとの間に信頼関係がなかったりすると、子どもの授業に対する意欲がダウンする。

**Q 教師にとって人間性を磨くことが非常に重要であることがわかりました。では、人間性を磨くにはどのようにしたらいいでしょう。**

いろいろな大人の世界と関わること。保護者、地域、そういう方々と関わる力を磨く

ということは、人間力を高めるし、その人の人間的な魅力を引き出すことにつながる。地域の方や保護者と、まず知り合う。多くの人たちと関わると、まず「知人」になる。そして、少し知り合いになれば会話が弾み、今度は「友人」という関係になる。さらに、悩みやいろいろなことが語れるようになり、関係に深みが増して「仲間」になる。人と関わるということは、知人→友人→仲間という関係づくり。これからの時代は、先生方が子ども以外の大人の方々といかに関わる力をつけられるか。そこに、教師の人間性を磨いていくポイントがある。

**Q 最後に、教育研究所に期待することを教えてください。**

小田原市の教育の現状を見て、こちらから出向いていこうという姿勢を持っている。その研究所の姿勢がいい。先生方も、そういうことを一番求めているのではないか。今後もぜひ、学校に入っていこうという機会をもっていただきたい。

今後、現場の教職員が一番悩んでいる事は何か、抱えている課題は何か、これからもそういったことに着目しながら、次年度も研修・研究を行っていくことが必要。従来の基礎的な研修も必要だし、今日的な課題や現代的なテーマに合わせた研修や研究も必要。その一つが、今年から始めたマナーアップ研修。

未来学舎については、さらに今後どういう充実・拡充が図れるかを大事にしていきたい。他市町村ではなかなか見られない、小田原独自の、求めて集まる先生方の研修。ぜひ、先生方が何を求めているのか、何が必要なのかをとらえて、未来学舎の中で取り扱うことを望む。



## 自己研鑽に努める

教育研究所長

椎 野 美 乃

教育研究所の研究・研修事業を進める中で、研究員の先生方や自主参加の先生方の熱意をひしひしとを感じる場面が数多くあります。自ら積極的に授業研究を行い、毎回の研究会は熱心な話し合いが時間を越えて続き、自主参加の「未来学舎」にも勤務後にかかわらず真剣に臨む姿があります。

今年の6月に、『OECD国際教員指導環境調査2013年調査』の結果が公表され、新聞の「日本の先生、自信最低、勤務時間最長」の見出しにため息をつかれた方もいらっしゃると思います。しかし、調査結果をもう少し丁寧に読んでいくと、参加34カ国の中で日本は、「講義・ワークショップ・会議・セミナーといった研修に参加している教員の割合はやや平均を下回るものの、他校の見学は非常に多い。また、研修へのニーズは、特別支援・ICT技能・新しいテクノロジーの他、教科指導・進路指導・カウンセリング・生徒指導・学級経営など多岐にわたって高い。一方で、研修への参加の弊害として、仕事のスケジュールと合わないことや支援不足が挙げられる。」という状況であることが読み取れます。ここから、日本の先生たちは、現実には研修に参加できないことがあるものの、研修への意欲は比較的高いと言えると考えます。

さらに、同調査で、「教員の自己効力感は、年5回以上専門的な勉強会への参加や他の教員の授業見学などの教員間の協力や協働を行った場合に高く、仕事への満足度は、年5回以上他の教員の授業見学を行った場

合に高い。」との結果も得られていて、互いの授業研究が意欲や自信、満足感に結びついていることがわかります。

日々の業務も多忙で、周囲の環境も易しくない、そんな現実の厳しさはあるでしょう。それでも、さあ、積極的に研修に励みましょう。研修会に参加しましょう。自己研鑽に努めましょう。先生方の研修への意欲がこれまで以上に高まり、自主的な研修を含め、さまざまな場で一層の研修に励まれることを期待します。それが、教師としての実力と自信をつける着実な一歩になります。当教育研究所もそんな先生方をお迎えし、共に研究・研修にあたれるよう、今後も工夫・改善を図っていきたいと考えています。

最後に、次回の未来学舎を紹介します。

11月12日(水)に、「金子みすゞのまなざし」と題して、みすゞ研究の第一人者である矢崎節夫先生の講話と山田浩子先生の歌を予定しています。金子みすゞの優しさ・感性にふれるひと時になると思います。

自分のことになりますが、この夏に訪れた山道沿い、鐘と立て札を何度も見かけました。多くの立て札に「熊が出てこないように鳴らしましょう」とある中、1枚だけ、「熊に人がいることを伝えてあげましょう」とあり、金子みすずの「大漁」を思い起こして心が温くなりました。未来学舎「金子みすずのまなざし」への多くの方のご参加を、心からお待ちしております。

## 児童生徒一人一人が自分の考えをもち 進んで学習する力を育むために

全国学力・学習状況調査の活用に関する研究

岩立 忠（富士見小学校） 竹岡 祥子（酒匂小学校）

神谷 啓之（新玉小学校） 馬場 健（早川小学校）

鈴木 真（鴨宮中学校） 白石 由美子（城北中学校）

平成19年度より、小学校6年生と中学校3年生を対象に全国学力・学習状況調査が実施されています。今年度も「国語A」「国語B」「算数・数学A」「算数・数学B」「質問紙」がそれぞれ行われました。ここ数年は調査についてニュース等でも大きく取り上げられており、社会の関心も高くなっているところです。

昨年度の小田原市の結果を見てみると、正答率は概ね全国平均と同じくらいか、やや低い状態です。また、全体的に無解答の児童生徒が多い傾向があります。

この8月には、今年度の結果が各校に返されました。その結果は、どのように活用されているのでしょうか。学校の傾向を全体的にとらえ、後は個人に配付するぐらいになっていないでしょうか。データとして貴重なものでありながら、十分に生かされていない現状があるように感じます。そういった状況から、今年度「全国学力・学習状況調査の活用に関する研究」をスタートしました。

### ① まずは調査について知ろう！

まずは、改めて研究員自身が調査問題を解いてみるどころから始めました。実際に解いてみると、調査問題が本当によく考えられ、学習指導要領で示されている内容とつながっていることが実感できました。次に、全国学力・学習状況調査に関係する「解説資料」や「授業アイディア例」などの資料を各自で読みました。調査に関して様々な資料があり、これまでの調査で明らかになっていることもたくさんあることが分かりました。さらに、学習指導法研修会（国語、算数・数学）

に参加することで調査に対する理解を深めました。

### ② どんな活用の仕方があるのだろうか？

実際にどのような活用の仕方があるのか考えるため、授業研究を行いました。6年生担任の研究員が今年度の調査の結果から、正答率や無解答率、正答数分布グラフなどをもとにしたクラスの分析のあり方を考えました。そして、分析の結果から「特に着目する調査問題」を決め、それに対応する授業を「授業アイディア例」をもとに行いました。また、抽出児を設定し、それぞれの児童が授業の中でどのような学びをしているのか観察をしました。

### ③ これからやっていきたいことは…

平成26年度の調査から、国語、算数・数学それぞれの課題や、質問紙調査との関係が明らかになってきています。具体的にどのような授業を行うことで、児童生徒に確かな学力をつけることができるのか、実践を通して研究を進めていきたいと考えます。また、データとしての結果をどのように学校や担任が活用していけるのかについてもさらに考えていきます。

全国学力・学習状況調査で分かることが全てではありませんが、児童生徒につけていきたい力が明確になることには間違いありません。この研究を通して児童生徒がよりよく学び、成長していくためにはどうしたらよいのか追究していきたいと思います。（文責 岩立）





## 「生きる力」の原点

教育指導課指導主事

楠 喜 久 子



一年も終わりに近づいたある日、ある幼稚園でのことです。年長の子と年少の子が入り混じり、中あてをしていました。楽しく遊んでいた子どもたちですが、そのうち、年少の2人が、ボールの取り合いを始めました。そこに年長の子が割って入り、一言二言2人に向かって話をしたかと思うと、片方の子にボールを渡しました。ボールをもらえなかった子は、目に涙をいっぱいためて、今にも泣き出しそうな様子でした。そして数分後。割って入った年長の子がボールをキャッチするとすぐに、先ほどから泣き出しそうな子にボールを渡したのです。ボールをもらった子は、表情がぱあーっと明るくなり、その後、みんなで楽しく中あてを続けることができたのです。

この年長の子の姿から、いろいろな力が育っていることがわかります。トラブルが起きた時に、**冷静に判断し対処する力**、結局ボールを持つことができなかった子の**思いを受け止める力**、自分が投げたい気持ちもあったかとは思いますが、ボールを譲るという**葛藤を乗り越える力**です。この力は、放っておいて育ったわけではありません。園での生活の中で、先生方の適切な援助があってこそ育った力だと言えます。一方、年少の子にとって、「思いを受け止めてもらえたという安心感」は、この先経験するであろう様々な葛藤を乗り越える力の土台となったように思います。

幼稚園に行ってまず驚くことは、先生方や子どもたちが、とても穏やかである

ことです。園内では、先生たちの大声が響き渡ることはなく、「～したらどうか？」「何をしたいのかな？」「どうしたらいいのかな？」「このままだとおかしくないかな？」等々、子ども自身が考え、答えを出すことができるような声かけを先生方がしています。このような声かけを続けていると、「どうするの？」「～してもいい？」と先生に許可を得るのではなく、自分で考え行動するという主体性が育っていきます。先生方はまるで空気のようにそこに存在し、いつのまにか離れたりまた寄り添ったり、気配はなくても存在感があるのです。もちろん、全体で話をする時は「今は先生が話します。」、誰かがみんなに話す時は「みんなを見てお話すんだよ。」と、「聴く」「話す」についての指導もしっかりしていることは言うまでもありません。

幼稚園教育におけるキーワードは、「環境」と「援助」です。子ども同士が友達の思いを受け止め、試行錯誤や葛藤を繰り返しながら、主体的に協同して遊ぶために必要な「環境」と「援助」を先生方は常に考えています。その「環境」や「援助」は、一つではなく子ども一人一人によって異なりますが、ある一人の子の育ちを願い援助をすることは他の子の成長につながるということが、子どもたちから伝わってくるのです。

幼稚園では、まさに「生きる力」の原点というべき教育が行われています。機会があれば、ぜひ幼稚園へ。





## 研究所だより⑦ 子どもを励まし やる気にさせる ペップトーク



～平成26年度 教育講演会～

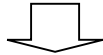


今年度の教育講演会の講師として、日本ペップトーク普及協会会長の岩崎由純氏をお迎えし、「言葉のちから 無限大！」という演題で、ご講演をいただきました。小田原市、足柄下郡の保育園、幼稚園、小・中学校の教職員のみなさんの心に、どのように響いたでしょうか。指導にペップトークを効果的に取り入れ、子どもたち・保護者・教職員等に励ましを送りましょう。(秋山)

### 言葉のちから 無限大！ 岩崎 由純 先生

#### ペップトークとは！

- ☐ 短くて
- ☐ 分かりやすく
- ☐ 肯定的な言葉を使った
- ☐ 魂を揺さぶる
- ☐ 人をその気にさせる
- ☐ スピーチ



**ポジティブ語** (肯定的な表現)

**ポジティブストローク**

(好印象を与える接し方)

**ラポール** (信頼関係)

**表現力** (真意が伝わる言葉遊び)

ポジティブな表現を使う  
思考は現実化する

していいことを伝える

成功や勝利をイメージさせる



**ポジティブな表現**

#### セルフペップトークの方法

- ・お気に入りの短い言葉や名言など
- ・小さなカードやメモに書いて
- ・いつも持ち歩く！
- ・困難にめぐり合った時や  
強い目的意識を持った時など
- ・それを声に出し、  
または心の中で連呼する！
- ・潜在意識の力を引き出す  
最も簡単、確実かつ強力な方法

なりた自分になるセルフペップトーク

**「私は～な人間だ！」**

ポジティブな断言に変えてみる！

「私は楽観的な人間だ」

「私は前向きな人間だ」

「私は大丈夫！」

「私はプラス思考だ」

「小さければ跳べば良い」

楽観的なポジティブ発言 (プラス思考)  
＝自動成功メカニズム



#### 最幸のコミュニケーション

- 子ども達のドリームサポーター
- 成功のイメージをポジティブ語で共有
- 感謝と感動のキャッチボール
- 本気で誉め本気で叱れる関係
- まずは自分自身がポジティブに！

～「教師の実践力と人間性をみがく」自己研鑽の場に～

今年度も、おだわら未来学舎を年間5回開催します。「3つの力」と「3つの心」を育成する授業力と専門性、そして人間性をみがくことをめざした研修です。自己研鑽の場として、ぜひご参加ください。

\*参加者はその都度募集しています。申し込みは学校単位、個人単位のいずれでも結構です。

第1回 7月4日開催 講師：新宮弘識先生  
「道徳の教科化における授業のあり方を考える」

道徳教育で大切なのは、あらゆる行動のもとになる「心」をどう育てていくかということ。また、道徳の授業を充実させるには、教師が資料を「一人の人間として何を学ぶか」という視点で読み、さらに、登場人物の行為と行為を生んだ心を構造的に読むことが大切。子どもも教師も、人間のよさに向かってどう生きていくかを求める「君子」であってほしい。

第2回 9月5日開催 講師：内河大和先生  
「地域の教育力を生かした学校づくり」

「だって...」「でも...」と自分たちで規制を設けず、地域とのネットワークを大切に、積極的にコミュニケーションを図ることが大切。「学校は地域の中にある」「地域総がかりで子どもを育てる」という意識を持ち、地域と学校が win-win の関係になるような仕組みをつくり連携を進めてほしい。

第3回 11月12日(水)

「金子みすゞのまなざし」

小田原市民会館小ホール

講師：矢崎節夫先生

山田浩子先生

田端ゆみ先生



第4回 12月11日(木)

「授業研究の原理・原則～授業力

向上のための実践的思考～」

小田原市役所大会議室

講師：小林宏己先生

第5回 1月26日(月)

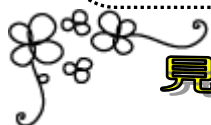
「これからの時代に必要な

学力・授業のあり方」

小田原市役所大会議室

講師：高木展郎先生

\*時間はいずれも 18:30～20:00



見る、感じる、学ぶ、やってみる!

～今後の教育研究所事業を紹介します～

◇第2回学習指導法研修会 教科指導力の向上を図る研修です。

| 教科・テーマ・講師                           | 日にち       | 授業者・講師                               |
|-------------------------------------|-----------|--------------------------------------|
| 《国語》「つきたい力の明確化と単元を貫く言語活動」を意識した授業づくり | 10月28日(火) | 報徳小学校 萩野 麻衣 教諭<br>国立教育政策研究所 杉本 直美 先生 |
| 《算数・数学》<br>数学的思考力を育てる授業づくり          | 11月17日(月) | 白山中学校 石黒 義樹 教諭<br>横浜国立大学 池田 敏和 先生    |

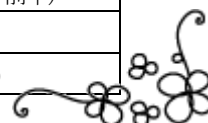
◇共同研究 公開授業 教育的課題を解決するための調査研究をふまえた授業の提案です。

| 研究テーマ           | 日にち      | 場所     |
|-----------------|----------|--------|
| 『幼保・小の連携に関する研究』 | 1月14日(火) | 東富水幼稚園 |

\*小学校入学時にスムーズに学校生活が送れるよう、年長の幼児を対象に、小学校と幼稚園の教諭がT.T.で授業を行います。参加者は後日募集します。

◇自然観察会 副読本「小田原の自然」を活用したフィールドワークです。参加者はその都度募集しています。

| テーマ               | 日にち       | 場所・時間           |
|-------------------|-----------|-----------------|
| 山地の自然～山の花や鳥を探る～   | 10月25日(土) | 石垣山・一夜城の周辺(午前中) |
| 小田原の地質・地形を調べよう    | 11月8日(土)  | 弓張の滝(午前中)       |
| 酒匂川水系の野鳥(冬の鳥を見よう) | 1月24日(土)  | 蛍田～狩川(午前中)      |



小田原教育 第121号 発行日 平成26年10月14日 発行者 教育研究所長 椎野 美乃  
発行所 小田原市教育研究所 〒250-8555 小田原市荻窪300番地 TEL0465-33-1730